

庁舎建設基準（消防署編）

平成 1 6 年度改正版

横浜市安全管理局

庁舎建設基準（消防署編）

1 趣旨

この基準は、消防署建設にあたって用地の選定及び設計業務の円滑化を図り、事業を効率的に遂行するため、必要な事項を定めるものとする。

2 基本的条件

消防庁舎の持つ特殊性に消防事務の効率化を図るための要素を加え、次の機能について有機的に結合させることを基本的条件とする。

- (1) 防災拠点として耐震上及び防火上安全な建築構造であり、かつ消防活動における初動態勢を確立できる機能
- (2) 一般行政機関としての機能
- (3) 24時間勤務体制としての職員の業務と生活の両面に配慮した機能
- (4) 各種災害等に対応するための訓練及び体力錬成を常時行うことができる機能

3 敷地の条件

- (1) 基準面積は、2,500平方メートルとする。
（間口62.5メートル、奥行40メートルを基本形とする。）
- (2) 敷地に接する道路は、消防車両がスムーズに出場できる幅員とし、12メートル以上を確保するよう努めるものとする。
- (3) 地盤については、大型車両等の配置を想定して軟弱地を極力避けるとともに、高低については、前面道路と同一レベルの平坦地を選定するよう努めるものとする。

4 建物構造及び規模

- (1) 構造は、鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造とする。
- (2) 規模は、単独庁舎型にあつては、3階建延面積2,500平方メートル、区庁舎等併設型にあつては、消防車庫階から3階層以内で延面積2,200平方メートルを基準とする。

但し、通路等の共用部分については、災害出動等に支障とならないよ

- う敷地の特性や建物の配置状況を勘案して、設計等で随時見直しを行うこと。（配置人員は85名(当直者55名、日勤者30名)を基準とする。）
- (3) 各室基準面積は、別表1のとおりとする。

5 庁舎の条件

消防業務の効率的な運営や省エネルギー化を推進するため、次の基準による。

- (1) 工期等が短縮できる工法及び材料等を採用すること。
- (2) 庁舎管理が容易で、光熱水費等が軽減できる諸設備を採用すること。
- (3) 生活スペースは、温かみのある雰囲気を持たせる仕様とすること。
- (4) 訓練施設は、特に安全性を考慮し、強固な造りとすること。
- (5) 外観は、地域特性を考慮し、街並み等周辺環境に合った市民に親しまれるものとする。
- (6) 公害対策（特に騒音）については、近隣関係を重視し、低騒音機器の採用や防音措置等を必要に応じ講ずること。

また、周辺からの騒音については遮音等の措置をとること。

- (7) 敷地内には訓練スペースを確保するとともに、植樹を施して開放的な雰囲気を持たせること。
- (8) 地震による被害を最少限に抑えるため、外壁及び窓の落下防止、家具類の転倒防止並びに設備機器及び配管の耐震性の向上を図ること。
- (9) 給水管及びガス管の地中埋設は行わない。やむをえず地中埋設をする場合は、土質等の解析調査を行い、電食等に耐えることのできる管を採用すること。
- (10) 扉の鍵について、正面玄関を含めた外部扉は、統一すること。

6 各室の条件

(1) 事務室

行政事務の中心的な室であり、一般事務室機能のほか、会議室的機能や災害出場に配慮した機能を有するものとし、次の条件を満たすこと。

- ア 開放感に満ちた雰囲気が出せるよう方位や窓等の採り方に配慮する。
- イ 事務室と車庫を結ぶ動線の経路や幅員を優先的に考えた配置とする。

ウ 外部からの騒音が激しい場所では、二重サッシ等音を遮断できる構造とする。

エ 事務室には、市民等からの相談や各種届出等进行处理するために必要な相談コーナー等を確保する。

オ 事務室はレイアウト変更が容易にできるよう、OAフロアとする。

(2) 署長室

行政機関の長の執務室であるとともに、接客要素の多い部屋であることから、次の条件を満たすこと。

ア 間仕切り壁は遮音性能を有する構造とするとともに、内装は応接室機能に考慮した仕様とする。

イ 長時間災害に対処できるよう、洗面所、簡易ベットを配置する。

(3) 書庫

書庫は、事務室に接して配置し、保存文書・査察台帳等を保管する機能を有するものであること。

ア 配置に際しては、スペースの有効活用に努め、階段下や梁下等についても検討を行うこと。

イ 可動式書架を収納できるように床の耐荷重を設計すること。

(4) 文書室

コピー機、印刷機、ファックス等の機器及びメールボックスを配置するするための室である。

(5) 休養室

男女各専用室を設置し、次の機能を有すること。

ア 床面はフローリング敷きで靴を脱いで休憩できる。

イ 内装等は家庭的な雰囲気のがもてるよう配慮する。

ウ 布団収納庫、靴入れを配置する。

(6) 会議室

各種会議、講習会等を実施する機能を有すること。

ア 白板、スクリーン、音響装置等を配置する。

イ 長机、椅子等の収納庫を設ける。

(7) 事情聴取室

災害等に関する情報を関係者から聴取するための室であり、次の機能を有すること。

ア 間仕切り壁は遮音性能を有する構造とする。

イ 使用者が周囲から目立ちにくい場所に出入口を配置する。

(8) 車庫

災害活動で最も重要な消防車両をはじめ、各種装備品や資機材を保管する機能を有するものであり、次の条件を満たすこと。

ア 災害出場を安全かつ容易にできるように前面道路と車庫との間に空地スペース（水槽付消防ポンプ自動車全長程度）を設ける。

イ 車庫の高さは、梁下で5メートル以上確保する。

ウ 車庫内は、防犯やほこり・耐寒性を考慮するため前後に閉鎖できるシャッター又はドアを設ける。ただし、これらは、出場に際して容易（故障が少なく時間がかからない）に開放できるものとする。

エ 消防車両が13台（はしご付消防自動車1台・水槽付消防ポンプ自動車3台（予備車1台）・高規格救急車1台・ミニ消防車1台・指揮車1台・司令車1台・予防関係車両5台）、二輪車5台程度がそれぞれ駐車できるスペースを有する。

車両は、はしご付消防自動車全長12メートル、全幅2.5メートル、水槽付消防車全長7.2メートル、全幅2.3メートル、救急車全長5.8メートル、全幅2メートルを基準とし、前後左右に有効スペースを確保する。

オ 消防車両と内壁面間には、有効幅2メートル程度の出場動線を確保する。

カ 近隣の火災に対応するため、床下（地中梁）を利用して100立方メートルの防火水槽を設ける。

なお、取水口は、立上げ管と有蓋丸式で消防車が容易に近づける場所とし、標識柱を設置する。

キ 防火衣等の格納は、55名分を掛けることができる。

ク 排気ガスを容易かつ効率的に排気できる構造とし、又は装置を設置する。

(9) 装備品格納庫

車両装備品・救助資機材・防災指導用具を保管する一般用と救急資器材を保管する救急用に分けて格納できる機能を有すること。

ア 一般用装備品格納庫

(ア) 車庫内に面して設置する。

(イ) 物品保管用に強固な構造の棚を設ける。

(ウ) 天井スラブ上は、ポート置場等資材を保管できるものとし、その搬出を容易にできる設備（ホイスト等）を設置する。

イ 救急用装備品格納庫

(ア) 救急消毒室に隣接して設置する。

(イ) 天井を張り換気設備を設ける等衛生面に配慮した構造とする。

(ウ) 薬品、包帯その他救命処置用器具が倒落やこれによる漏れが生じることなく保管できるように配慮する。

(10) 救急消毒室

救急消毒室は、救急活動における搬送者等からの感染防止を図るための機能を有し、併せて、救急隊帰所後、最短距離でストレッチャー等を洗浄できるよう配置するものとし、次の条件を満たすこと。

なお、内部に設ける資器材等は、使用順序等を考慮し、適正に配置する。

ア 入り口ドアの開閉は、直接手で触れなくても容易に開閉できる仕組み（例：肘や足を使う、自動ドア等）とすることなど、作業性に配慮した構造とする。

イ 二漕式流し台を設置する。

なお、このうち一層は深型で、手洗い及び血液や汚物等で汚れた資

器材を洗淨できるものとし、他の一層は、消毒剤を浸し、消毒できる仕様とする。

ウ 下部には感染性廃棄物を収納できる専用の20リットル容器(H350×W400×D230)を備え付ける。

エ 洗淨した資器材を滅菌するための前作業を行うため、作業台を設ける。

オ 血液、汚物等により汚染された救急服等を洗淨する洗濯機、乾燥機を2段積みで設置する。

カ ストレッチャーを洗淨するスペースを設け、ホースリールにより延長可能なシャワー機能を設置する。

キ ストレッチャー洗淨部分に排水口を設置する。

ク その他各種機器類については、救急消毒室機器仕様一覧に基づき設置する。

(11) 訓練室

消防職員が災害活動に従事するうえで必要な体力及び技術を錬成並びに向上させるための訓練やトレーニングを実施する機能を有し、次の条件を満たすこと。

また、市民等が一時的に利用することを考慮した機能を併せ持ったものとする。

ア 訓練するうえで容易に破損しない内部構造とし、弾力性かつ安全性が充足されている。（人体に触れるところには突起物を出さない。）

イ 訓練やトレーニングのほか、簡易なスポーツ(バドミントン(コート13.4メートル×6.1メートル、高さも確保)、体操、剣道等)ができる仕様とする。

ウ 照明器具はエネルギー効率が良く、しかも管理上容易に交換できるものを採用する。

エ 訓練等から発生する騒音(防音)対策を考慮する。

オ 開口部は、通気の必要性を除き採光のための開口部は最少限とする。

(12) 器具庫

訓練用具（バーベル等筋力トレーニング用具を除く。）を保管する倉庫としての機能を有し、次の条件を満たすこと。

- ア 訓練室と一体とし、室を設ける。
- イ 物品保管の棚を設ける。

(13) 筋力トレーニング室

バーベル、筋力マシン、懸垂用鉄棒を配置する機能を有すること。

- ア 訓練室と一体とし、安全管理上、訓練室側から内部を確認できる。
- イ 床面の強度を考慮する。

(14) 寝室

仮眠スペースとしての機能を有し、次の条件を満たすものであるが、過度に居住性及び密室性を重視しないこと。

- ア 原則として、個室タイプとする。（2名又は3名の職員が1日おきに交互に使用する。）
- イ 床は、歩行時騒音の少ない材質を使用する。
- ウ 壁及び建具は、外部からの騒音防止及び夜間採光を遮断できるものを採用する。
- エ 車庫に達する動線は、安全かつ短時間で到達することができるものとする。
- オ 扉は、開閉時に音がしないものを採用する。

(15) 厨房兼食堂

職員の食事をする室であり、休憩所の機能も兼ね備えたものとし、次の条件を満たすこと。

- ア 家庭的な雰囲気もてる内装類で仕上げる。
- イ フローリング床（25㎡程度）の部分を食堂と一体的に設け、靴を脱いで自由に休憩できるようにする。
- ウ 床・壁等の汚れを容易に落とすことができるよう仕上げる。
- エ 床は、防水施工する。
- オ 食堂内に手洗い専用栓を設置する。

(16) 便所・洗面所

職員専用を原則とするが、来客者等も考慮に入れたものとし、次の条件を満たすこと。

- ア 清掃が容易にできる内装を採用する。
- イ 外部出入口付近等の汚れやすい場所に設ける場合は、床を防水施工する。
- ウ 執務スペースと生活スペースが複数階にわたる場合には、原則として、各階ごとに便所を設置する。
- エ 子供でも使用できる便器を考慮し、かつ節水型を採用する。
- オ 身体障害者用便所を設置する。
- カ 洋式便所ブース内にコンセントを配置する。
- キ 洗面用具収納棚は、原則として85人分設ける。

(17) 浴室・脱衣室

職員が災害出場、訓練等により汚れた体を清潔に保つための機能を有し、次の条件を満たすこと。

- ア 湿気等により腐食が発生しない材料や、耐久性がありかつ衛生的なものを使用する。
- イ 換気が十分にとれるよう対処する。
- ウ 床は、防水施工とする。
- エ 給湯設備を複数設ける場合、故障対策として浴室の浴槽とシャワーを別系統に分ける。

(18) 洗濯室

- ア 洗濯機パン・乾燥機台を設置するものとし、男（3台）女（1台）別に配置するスペースを確保する。
- イ ガス式乾燥機用ガスコック、排気筒及び单相100Vコンセントを設置する。

(19) 機材庫

非常災害時に対応するための資機材等を保管する機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 備蓄品搬出入の際、車両が近づける位置に設ける。

イ 各壁面に棚を設置する。

なお、この棚には飲料水や缶詰等の重量物を保管するため強度を十分とる。

ウ 換気設備等を設ける。

(20) 機械室

空調機械、受変電設備、自家用発電機設備等を設置する室で、次の機能を有すること。

ア 省エネルギータイプでメンテナンスの容易な設備とする。

イ 自動運転のほか、庶務課から遠隔操作による運転制御ができる。

(21) 庁舎外部

次の条件を満たすこと。

ア 市民が一目で消防庁舎とわかる存在感（ホースタワー、赤色回転灯）のある建物とする。

イ 外部に表示する消防署名等は、丸ゴシック書体を基本とする。

ウ 地震・風水害等で容易に破損しない外壁とする。

エ 雨漏れ対策を十分施し、施工のみならず設計時点よりその対策を考慮する。

オ 危険物倉庫を設置する。

カ バイク、自転車置場を設置する。

キ ホースタワーは、以下の条件を満たす。

(ア) ホース干し機能

a ワイヤーを用いたハンガー式を原則とし、一回の使用で30本程度のホースを吊すことができる。

b 運転時の騒音が極力発生しにくい構造（モーターによる駆動等）である。

c 長期間の使用に耐える部材等を採用する。

d 保守点検が容易かつ安全に実施できるものである。

(1) 訓練機能

ホースタワーを救助訓練施設と兼用する場合は、原則として高さ17mを確保するとともに以下の条件を満たす。

a 「はしご登坂訓練」「ロープ応用登坂訓練」等、救助訓練基準に適合するよう、アンカー等付帯設備を含めて整備する。

b 登坂訓練で使用する壁面は、コンパネ張りとするとともに、補修・交換が可能な構造とする。

c 救助施設側前面は、訓練に必要な空地を確保する。

(2) 外構

次の条件を満たすこと。

ア 救助訓練、体力増強訓練、ホース洗浄等を行うためのスペースを確保する。

イ 広報板等を設置する。

ウ 車庫前等の舗装は、重量車の車庫入れや切り返しに耐えられるものとする。

エ 土間勾配に注意し、敷地内に滞水することのないようにする。

オ 植栽は、将来にわたり管理が容易な種類を植える。

7 庁舎標準仕上表

別表2 - 1（外部仕上表）及び2 - 2（内部仕上表）のとおり。

8 工事上の留意事項

工事が安全にかつ円滑に進捗できるよう次の点に留意すること。

(1) 隣地との境界線上の施工については、問題が生じないよう事前に協議し、相互同意のもとに着工する。

(2) 境界石標は、破損や紛失させない養生を施すこと。

また、施工上抜取る必要が生じたときは、消防局施設課と協議を行った後、隣接地権者立会いのもとに抜取る。

(3) 騒音や工事車両の駐車等、近隣対策を十分検討し、周辺住民に配慮した事前計画の策定や工法を採用することに努め、苦情の申し出に対して

は、安易に回答することなく、誠意を尽くし対応を図る。

- (4) 先見的な計画の基に工事を施工し遅延することがないように注意をする。
- (5) 庁舎内外装の色決めについては、街並みに配慮するとともに、消防局を中心とした意見・要望を集約してから決定する。
- (6) 標準共通図については施工図を作成し、消防局の意見・要望を集約してから製作施工する。
- (7) 訓練用フック（訓練室、ホースタワー等）については施工後、引張り試験を実施する。
- (8) 建築工事、各付帯設備工事分離発注のための工事の重複及び脱落箇所がないよう綿密な打合わせのもとに施工する。

消 防 署 面 積 表

室 名		単独型(m ²)	併設型(m ²)	説 明
事 務 室 ・ 会 議 室 等	署 長 室	2 5		
	事 務 室	3 8 3		4.5 m ² × 85名
	会 議 室	4 5		1.5 m ² × 30人収容
	事情聴取室	3 0		15m ² × 2室
	相談コ - ナ -	4 0		10m ² × 2グル - プ対応
	展示コ - ナ -	2 0		
	更 衣 室	6 8		0.8 m ² × 85人
事 務 室 仕 様 以 外 の 室	寝 室	2 5 5		7.5 m ² × 34室
	訓 練 室	2 0 0		
	通 信 室	1 5		
	通信機械室	1 8		
	文 書 室	1 5		
	書 庫	5 0		
	食 堂	5 1		1.5 m ² × 34人
	厨 房	1 5		
	湯沸かし室	1 6		8m ² × 2室
	男子休養室	3 0		3m ² × 10人宿泊収容可能
	女子休養室	1 0		6畳程度を確保
	便 所	6 4		10m ² × 3か所 8m ² × 3か所 身障者用10m ²
	浴室・脱衣室・洗面所・洗濯室	5 0		男子用
浴室・脱衣室・洗面所・洗濯室	2 0		女子用	
そ の 他	車 庫 防火衣収納庫	3 5 0		梯子車 1台 ミニ車 1台 大型化学 1台 司令車 1台 普通消防車 1台 査察車等 5台 救急車 1台 予備車 1台 指揮車 1台 二輪車 5台程度
	装備品格納庫	3 0		
	機 材 庫	5 0		
	危険物倉庫	1 0		
	救急消毒室	1 2		
	機 械 室	2 0 0	0	ホ 行 - 室・空調室・電気室・E V 室
	通路等供用部分	4 2 8	3 2 8	全体面積の約20%
合 計	2 , 5 0 0	2 , 2 0 0		

消 防 署 面 積 表

室 名		単独型(m ²)	併設型(m ²)	説 明
事 務 室 ・ 会 議 室 等	署 長 室	2 5		
	事 務 室	<u>3 8 3</u>		4.5 m ² × <u>85</u> 名
	会 議 室	4 5		1.5 m ² × 30人収容
	事情聴取室	3 0		15m ² × 2室
	相談コ - ナ -	4 0		10m ² × 2グル - プ対応
	展示コ - ナ -	2 0		
	更 衣 室	<u>6 8</u>		0.8 m ² × <u>85</u> 人
事 務 室 仕 様 以 外 の 室	寢 室	2 5 5		7.5 m ² × 34室
	訓 練 室	2 0 0		
	通 信 室	1 5		
	通信機械室	1 8		
	文 書 室	1 5		
	書 庫	5 0		
	食 堂	5 1		1.5 m ² × 34人
	厨 房	1 5		
	湯沸かし室	1 6		8m ² × 2室
	男子休養室	3 0		3m ² × 10人宿泊収容可能
	女子休養室	1 0		6畳程度を確保
	便 所	6 4		10m ² × 3か所 8m ² × 3か所 身障者用10m ²
	浴室・脱衣室・洗面所・洗濯室	5 0		男子用
浴室・脱衣室・洗面所・洗濯室	2 0		女子用	
そ の 他	車 庫 防火衣収納庫	3 5 0		梯子車 1台 ミニ二車 1台 大型化学 1台 司令車 1台 普通消防車 1台 査察車等 5台 救急車 1台 予備車 1台 指揮車 1台 二輪車 5台程度
	装備品格納庫	3 0		
	機 材 庫	5 0		
	危険物倉庫	1 0		
	救急消毒室	1 2		
	機 械 室	2 0 0	<u>0</u>	ホ 行 - 室・空調室・電気室・E V室
	通路等供用部分	<u>4 2 8</u>	<u>3 2 8</u>	全体面積の約20%
合 計	2 , 5 0 0	<u>2 , 2 0 0</u>		

外部仕上表

名称	仕上表	名称	仕上表
屋根	スラブ勾配コンクリート直押えアスファルト防水(B-1) 断熱材：硬質発泡剤ポリスチレン(ア)2.5・絶縁材ポリエチレンシート(ア)0.2押え コンクリート(ア)8.0押え (溶接鉄網φ6.150入) 伸縮目地 W=25	屋外掲示板 LED掲示板	ステンレス既製品(照明器具付) (電気設備工事付)
外壁	タイル(一部コンクリート打放し吹付けタイル(弾性系))、一部打放し(訓練用)	丸	ステンレス製
軒	アルミスバンドレル(ア)1.0	屋外訓練フック	ステンレス製・鉄筋コンクリート基礎
巾	コンクリート打放し・吹付けタイル	看板用フック	ステンレス丸棒 φ9.0
ホースタワー	外壁に同じ・訓練用はしご・丸環・手摺り・一部打放し(応用登坂側)	消火原液棚	鉄筋コンクリート製、防水モルタル金ゴテ
建具	アルミ製：アルマイト仕上枠見込み70mm網入ガラス(ア)6.8 受付カウンタ-3面色付(ア)10.0mm、エアタイト式、網入型板ガラス スチ-ル製建具：ボンテ鋼板フラッシュSOP、オーバ-ドア	横浜市マーク	ホースタワー上部 コンクリート増打目地押え、目地塗装仕上げ
ルーフトレイン	鋼鉄製コーナ-ル焼付横引型100mm、縦引型75mm	へり対空表示	横浜市マーク、磁器質タイル貼(赤色)
縦樋	硬質塩化ビニ-ル管 VP：100mm VE 掃除口付	屋上架台	雨量計・風速計立上り ウレタン型塗布防水(ア)2.0 設備機器立上り 防水モルタル金ゴテ
屋上用タラップ	ステンレス(SUS：304)	消防用設備等	消火器、大型消火器、誘導灯、その他
庇	コンクリート打放し・吹付けタイル	配管ピット	床・壁：モルタル防水 金ゴテ
玄関アプローチ	磁気質無垢ウ100 タイル貼、玄関マット：外枠SUS H=25 W=1200 D=600	防火貯槽(100t)	床・壁：モルタル防水、連通管VPφ100-6か所、立上り採水口、水槽標識
所名文字板	ステンレス(180) 丸ゴシック文字	かけつけ電話箱	ステンレス(SUS：304)、照明器具
舗装	コンクリート直仕上げ・目地切・簡易アスファルト舗装	車庫前停止線	歩道手前位置、焼付塗装等
旗ポール	アルミ既製品・10m×2本、ワンタッチ式	フェンス	角パイプフェンス H=1,500
赤色回転灯	台座ステンレス		

内部仕上表(2-1)

名	称	床	巾	木	腰	壁	壁	天	井	天井高	備	考
玄	関	床用磁器質タイル	テラゾー・ブロック			事務室に同じ	化粧石膏ボード @9.5			2,600		
事	務	システム床組 カーベット地	木製(ラワン)SOP H250		ラワン合板(ア)5.5 下地 ポリエステル化粧合板(ア)6.0 (目透し貼)	ラワン合板(ア)5.5 下地 ポリエステル化粧合板(ア)6.0 (目透し貼)	同上			2,600		初年度・揭示板・行事予定表・委員 管内図・部隊配置表・指令加付・ アラウンド (BOX法) ビンテージ
書	庫	モルタル金ゴテ下地 長尺塩ビシート貼(ア)2.5	モルタル金ゴテ		モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	コンクリート打放し					スチール棚(可動式)
車	庫	コンクリート金ゴテ 直仕上げ目地切	コンクリート打放 目地分れ		コンクリート打放(ア)吹付タイル(E)	コンクリート打放吹付タイル(E)	コンクリート吹付タイル			梁 下 4,000 (新法12,000)		防炎・ホース巻掛・耐火・編上靴入 コナカ・ガード・防炎・巻掛・巻掛 水銀灯・手洗い場
装	備	モルタル金ゴテ	同上		モルタル金ゴテ	同上	コンクリート打放し					木製棚・ロープ・スナップ・掛け
備	蓄	同上	同上		コンクリート打放	同上	同上					木製棚
浴	室	床用磁器質タイル			半磁器質タイル	半磁器質タイル	バスリブ					ステンレス浴槽・防水施工
脱	衣	モルタル金ゴテ下地 長尺塩ビシート貼(ア)2.5	木製SOP		モルタル金ゴテ 吹付タイル(E)	モルタル金ゴテ 吹付タイル(E)	石綿セメント掛酸カル シューム 板目透し貼VE			2,400		脱衣棚, 防水施工 洗濯機
洗	面	床用磁器質タイル			半磁器質タイル	半磁器質タイル	同上					洗面台・洗面用具入れ タオル掛け・防水施工
便	所	磁器質モザイクタイル			同上	同上	同上					用具棚・掃除用具掛金物・防汚外
訓	練	鉄製床組(H=350)の上ラワ ンベニヤ捨張(ア)18 伊勢 工70-リッパ ポリリッパ3面貼り	木製SOP		有孔ラワン合板目透し貼(ア)9 SOP 寒冷紗裏貼り グラスウール(ア)50 24Kg	有孔ラワン合板目透し貼(ア)9 SOP グラスウール(ア)50 24Kg	(ア)50木毛セメント板 打込EP吹付梁型: コナカ -付酸アル(E)			梁 下 6,500		訓練用丸環・下足箱他 ランニング・レール・吊り縄3本 バドミントン基礎・水鏡(昇降装置付)
器	具	モルタル金ゴテ下地 防塵塗料塗り	モルタル金ゴテ		モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	コンクリート打放 梁型: 同上					木製棚
廊	下	モルタル金ゴテ下地 長尺塩ビシート貼(ア)2.5	モルタル金ゴテ VE		モルタル金ゴテ EP	モルタル金ゴテ EP	化粧石膏ボード (ア)0.9			2,600		

別表2 - 2

内部仕上表（2 - 2）

名称	床	巾	木	腰	壁	壁	天井	天井高	備	考
寝室	モルタル金ゴテ下地 長尺端ビシート貼(ア)2.5	木製(ラワン)SOP H250	ラワン合板(ア)5.5 下地 ポリエステル化粧合板(ア)6.0 目透し貼り	ラワン合板(ア)5.5 下地 ポリエステル化粧合板(ア)6.0 目透し貼り	ラワン合板(ア)5.5 下地 ポリエステル化粧合板(ア)6.0 目透し貼り	化粧石膏ボード (ア)9	2,600	遮光ブラインド(BOX共) 網入型板ガラス 収納ロッカー(鍵付)		
厨房兼食堂	同 一部フローリング敷き	同	上	同	上	同	上	2,600	ブラインド(BOX共) 食器棚・吊り戸棚他H1800 洗い	
廊下	同	モルタル金ゴテVE	モルタル金ゴテ EP	モルタル金ゴテ EP	モルタル金ゴテ EP	同	上	2,600		
階段	同	同	上	同	上	同	上		手摺:SUS ノンスリップ SUS(ゴムタイヤ付:両端 W=60フラット加工)	
便所	同	同	上	同	上	同	上		消音タイプ ウォシュレット	

内部仕上表（待機宿舎）

（連絡員用）

名称	床	巾	巾	壁	天井	天井高	備	考
玄関	防水モルタル金ごて	防水モルタル金ごて	ビニールクロス	ビニールクロス	ビニールクロス	2,400	上り框：タモ積尺材 中広鴨居	
廊下	フローリング	木	木	木	木	2,400		
厨房・食堂	フローリング	木	木	木	木	2,400	流し台L=1200 ガス台L=600 吊り戸棚L=1200 H=800 ステンレス製水切棚L=800 フード	
洋室1(6畳)	フローリング	木	木	ポリ化粧合板	ビニールクロス	2,400	クーラー用スリーブ・コンセント・インサート	換気スリーブ
洋室2(6畳)	フローリング	木	木	ポリ化粧合板	ビニールクロス	2,400	"	
洋室3(6畳)	フローリング	木	木	ポリ化粧合板	ビニールクロス	2,400	"	
浴室			ユニットバス				屋外型(追い焚機能付) 厨房・洗面所・浴室給湯	
洗面所・脱衣室	長尺塩ビシート	ソフト巾木	ビニールクロス	フレキシブボード	フレキシブボード	2,400	カーテンレール ステンレスタオル掛け 鏡 化粧箱	
便所	長尺塩ビシート	ソフト巾木	ビニールクロス	フレキシブボード	フレキシブボード	2,400	洋式、手洗い、コンセント	
押入・物入	合板	雑巾ズリ	合板	合板	合板			

（独身者用）

名称	床	巾	巾	壁	天井	天井高	備	考
玄関	防水モルタル金ごて	防水モルタル金ごて	ビニールクロス	ビニールクロス	ビニールクロス	2,400	上り框：タモ積尺材 中広鴨居	
廊下	フローリング	木	木	木	木	2,400		
厨房・洋室8畳	フローリング	木	木	木	木	2,400	ミニキッチン、クーラー用スリーブ・コンセント・インサート	換気スリーブ
浴室洗面			ユニットバス				屋外型・厨房浴室給湯	
便所	フローリング	木	木	ビニールクロス	ビニールクロス	2,400	洋式、手洗い、コンセント	
押入・物入	合板	雑巾ズリ	合板	合板	合板			

1 外部仕上は、消防出張所と同じ。

2 面積：連絡員用60㎡、独身者用30㎡。1フロアーに連絡員用1室、残りを独身者用とする。